

みやぎ東日本大震災津波伝承館

事例報告

宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課
課長 田代 浩一



宮城県震災復興計画（2011.10策定）

計画期間：10年間（目標：平成32年度）

宮城県の復興

復旧期

H23(2011)～H25(2013)
(3年間)

再生期

H26(2014)～H29(2017)
(4年間)

発展期

H30(2018)～H32(2020)
(3年間)

■ 基本理念

- ①災害に強く
安心して暮らせる
まちづくり
- ②県民一人ひとりが
復興の主体・
総力を結集した復興
- ③「復旧」に
とどまらない
抜本的な「再構築」
- ④現代社会の課題を
解決する先進的な
地域づくり
- ⑤壊滅的な
被害からの
復興モデルの構築

◎ 生活に密着したインフラ整備や災害に強いまちづくりなどのハード面の取組は、多くの地域で終了

◎ 被災者支援・心のケアなどのソフト面の取組は、中長期的な対応が今後も必要

新・宮城の将来ビジョン（2020.12策定）

※「宮城の将来ビジョン」，「宮城県震災復興計画」，「宮城県地方創生総合戦略」の後継計画

計画年度：10か年 令和3年度(2021年度)～令和12年度(2030年度)

■復興に向けたサポートと政策推進の基本方針（1+4）

被災地の
復興完了に向けた
きめ細かなサポート

- | | | | |
|--------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|--------------------------|
| ①富県宮城を支える
県内産業の
持続的な成長促進 | ②社会全体で支える
宮城の
子ども・子育て | ③誰もが安心して
生き生きと暮らせる
地域社会づくり | ④強靱で
自然と調和した
県土づくり |
|--------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|--------------------------|

政策推進の基本方針「宮城の未来をつくる4本の柱」

取組1：生活再建の状況に応じた
切れ目のない支援

取組2：回復途上にある
産業・なりわいの下支え

取組3：福島第一原発事故
への対応

取組4：復興事業のフォローアップと
成果・教訓の伝承

一つひとつ課題に応じた丁寧なサポートを実施します

東日本大震災の記憶・教訓の伝承に関する基本方針（2021.4策定）

■ 基本理念

東日本大震災の経験や復旧・復興の過程，そこからの教訓を
現在（いま），そして未来に伝え続ける。
一人ひとりがかけがえのない大切な命を守り，
災害時に「自らの命を守る行動」が実行できる社会をつくる。

■ 伝承に関する3つの柱

- ① 震災の記憶・経験の蓄積と発信
- ② 伝承や防災・減災に関する人材の育成と防災教育の推進
- ③ 多様な主体の連携による伝承の推進

東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝承し，国内外に広く発信していきます。



本日本話しさせていたたくこと

1. 当館について
2. 展示コンセプトについて
3. 来館者の状況について
4. 現在の課題と取組の方向性について
5. 「東日本大震災アーカイブ宮城」との連携について



本日本話しさせていたたくこと

1. 当館について

2. 展示コンセプトについて

3. 来館者の状況について

4. 現在の課題と取組の方向性について

5. 「東日本大震災アーカイブ宮城」との連携について



1. 当館について

2021.6.6 みやぎ東日本大震災津波伝承館 開館



石巻南浜津波復興祈念公園は
2021.3.28 に開園



みやぎ東日本大震災津波伝承館

【所在地】 宮城県石巻市南浜町2丁目1-56

【開館時間】 9:00～17:00

【休館日】 毎週月曜(祝日の場合は翌日), 祝日の翌日(土日, GW期間は除く)
年末年始(12/29～1/4)

※ただし, 毎月11日は曜日・祝日に関わらず開館

1. 当館について

新・宮城の将来ビジョン

被災地の復興完了に向けたきめ細かなサポート

取組4：復興事業のフォローアップと 成果・教訓の伝承



東日本大震災の記憶・教訓の伝承に関する基本方針（2021.4策定）

■ 基本理念

東日本大震災の経験や復旧・復興の過程，そこからの教訓を現在（いま），そして未来に伝え続ける。
一人ひとりがかけがえのない大切な命を守り，災害時に「自らの命を守る行動」が実行できる社会をつくる。

■ 伝承に関する3つの柱

① 震災の記憶・経験の
蓄積と発信

② 伝承や防災・減災に関する
人材の育成と防災教育の推進

③ 多様な主体の連携による
伝承の推進

震災伝承の拠点としての「みやぎ東日本大震災津波伝承館」

1. 当館について

私たちの 責務

- ①同じ悲しみと混乱をくり返さないために、東日本大震災の記憶と教訓を永く後世に伝え継ぐこと
- ②被災地の再生と復興に向けて、人々と地域が力を合わせて歩み続けること



みやぎ東日本大震災津波伝承館は、

未来への誓いを新たにするための場

次なる災害への備えを確かなものにできるよう、
全国，世界，そして次世代の人々とつながり，
発信と交流に努めてまいります。

本日本話しさせていたたくこと

1. 当館について
- 2. 展示コンセプトについて**
3. 来館者の状況について
4. 現在の課題と取組の方向性について
5. 「東日本大震災アーカイブ宮城」との連携について



2. 展示コンセプトについて

展示の 目的

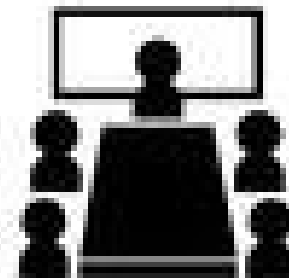
- ①東日本大震災と同じ悲しみと混乱を繰り返さないために震災の記憶と教訓を永く後世に伝える
- ②県内の震災伝承施設等へ誘うゲートウェイ（玄関口）の役割を果たす

コンセプト

「かけがえのない命を守るために，未来へと記憶を届ける場」

意見交換 など

展示の内容については，地元の皆様や関係団体の方々などとの意見交換や展示制作監修アドバイザーの皆様から，御意見をいただき決定しています。



2. 展示コンセプトについて

伝承館の 展示概要

① つなぐ記憶

津波の歴史や震災前後の記憶を通し、被災の大きさを伝えます。



② 東日本大震災を知る

東日本大震災の概要と県内被害を伝えます。



③ シアター「くり返さないために」

科学的視点とリアルな映像で津波の恐ろしさを伝えます。



④ 津波から命を守る

津波の歴史や津波のメカニズムを紹介するほか、被災時の人々の証言等を紹介します。



⑤ ともにつくる復興

震災を経て生まれた、まちを元気にし、立ち上がらせる取組や施設、団体を映像で紹介します。



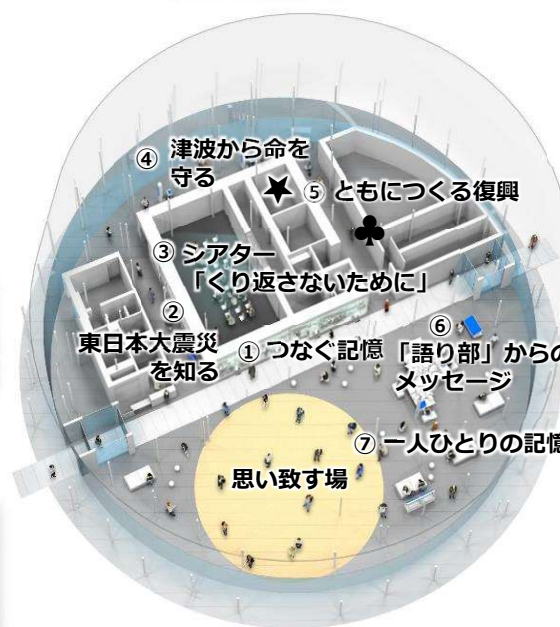
⑥ 「語り部」からのメッセージ

県内各地の語り部活動の様子を映像で紹介しています。



⑦ 一人ひとりの記憶

震災当時から現在に至るまでの様々な立場・視点の証言を映像で紹介しています。



★東日本大震災・緊急対応の記録 【制作：国土交通省 東北地方整備局】

発災以降の緊急対応の記録と被災物を通じて津波の脅威を伝え、頻発する自然災害への備えについて考えるきっかけを提示します。



♣ 3. 1 1 伝承ロード 【制作：国土交通省 東北地方整備局】

東日本大震災の実情と教訓を学ぶことが出来る「震災伝承施設」を紹介します。



2. 展示コンセプトについて

当館における展示の特徴：①豊富なインタビュー映像展示

●シアター映像展示（展示名称：シアター「くり返さないために」） 出演者：6名

⇒実際の津波映像や科学的視点に基づく解説に加え，被災した方や救命活動に携わった方のインタビューを組み入れることで，「津波から命を守るには“逃げる”しかない」ことを徹底して訴えます。



2. 展示コンセプトについて

当館における展示の特徴：①豊富なインタビュー映像展示

●モニター映像展示（展示名称：ともにつくる復興，一人ひとりの記憶） 映像数：61団体（22+39）

⇒震災を経て，地域を元気にするために活動している方々のインタビューや，震災当時から現在に至るまでのインタビューを視聴してもらい，震災にどのように向き合い，立ち上がってきたか等，様々な視点から震災を考えるきっかけを提示します。



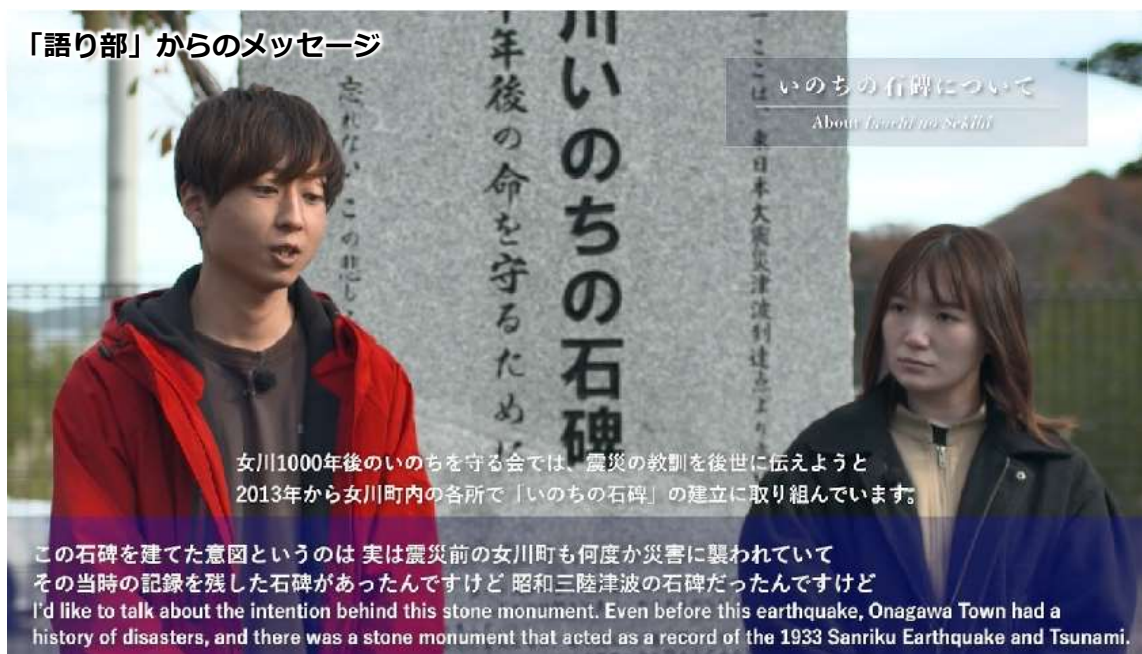
2. 展示コンセプトについて

当館における展示の特徴：①豊富なインタビュー映像展示

- テーブル型ディスプレイ映像展示（展示名称：「語り部」からのメッセージ） 映像数：18団体・個人
⇒震災を語り継ぐ活動をされている個人・団体の方々のインタビューを視聴してもらい、**活動内容や活動に込められた想いを伝えます。**



テーブル型ディスプレイ



[illegible]

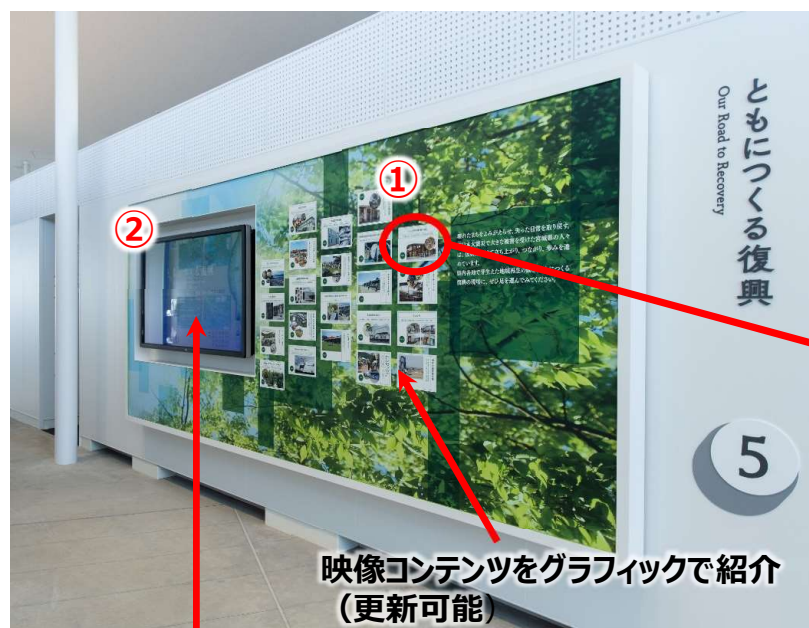
震災から年次が経過してからの展示作成のため、各種研究結果の分析結果を展示内容に反映しています。

2. 展示コンセプトについて

当館における展示の特徴：③県内各地へ誘うきっかけとなる展示

●モニター映像展示（展示名称：ともにつくる復興）

・県内各地の（キーパーソンとなりうる）方々のインタビューを多数視聴できるほか、実際に現地に足を運んでもらう、きっかけとなるような情報も提示しています。

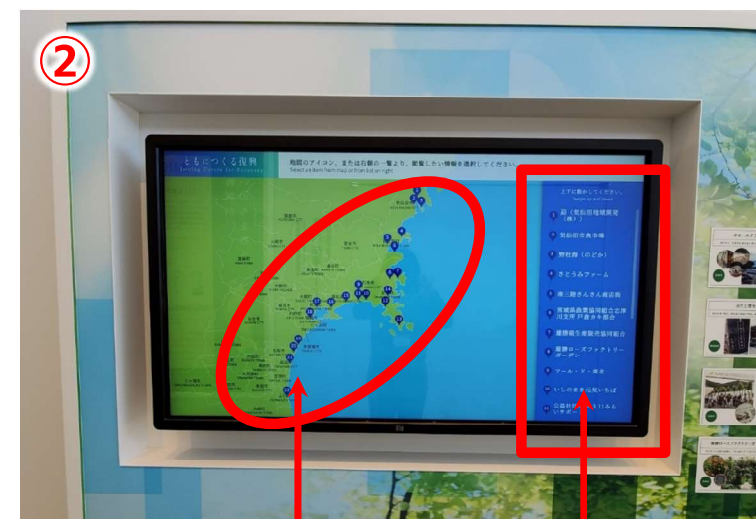


映像コンテンツをグラフィックで紹介
（更新可能）

大型モニターにより、各地でインタビューした映像を紹介（更新可能）



インタビュー掲載施設、団体、
イベントの名称・写真を掲載



地図による選択が可能
（地図は拡大・縮小が可能）

施設名称からも選択可能

2. 展示コンセプトについて

当館における展示の特徴：③県内各地へ誘うきっかけとなる展示

●モニター映像展示（展示名称：「語り部」からのメッセージ）



県内各地の（キーパーソンとなりうる）方々のインタビューを視聴していただき、実際に現地に足を運んで聞いてみたいと思ってもらえる、きっかけや助けとなる情報を提供しています。

本日本話しさせていたたくこと

1. 当館について
2. 展示コンセプトについて
- 3. 来館者の状況について**
4. 現在の課題と取組の方向性について
5. 「東日本大震災アーカイブ宮城」との連携について

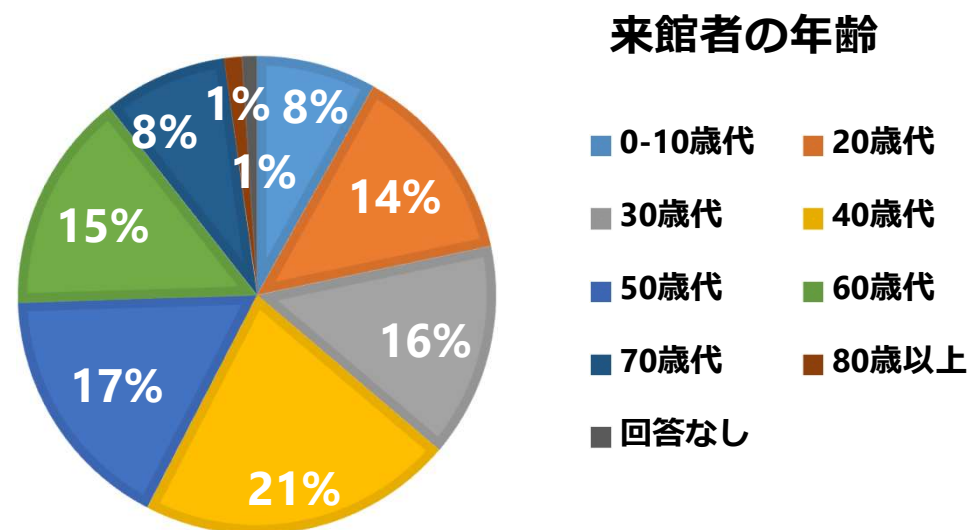
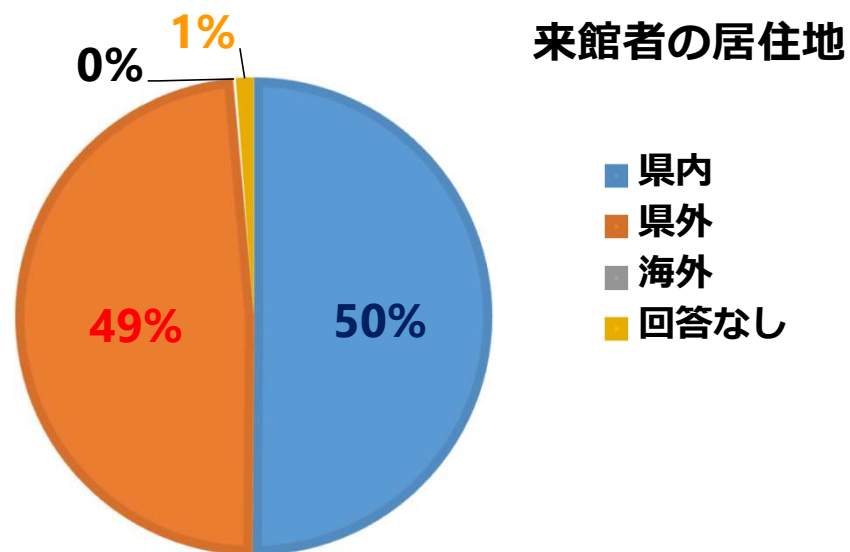


3. 来館者の状況について

◎ 令和3年8月4日 **来館者10,000人突破**（令和3年9月末現在，来館者数16,285人）

◎ 来館者の半数は県内から。年代層も幅広い。

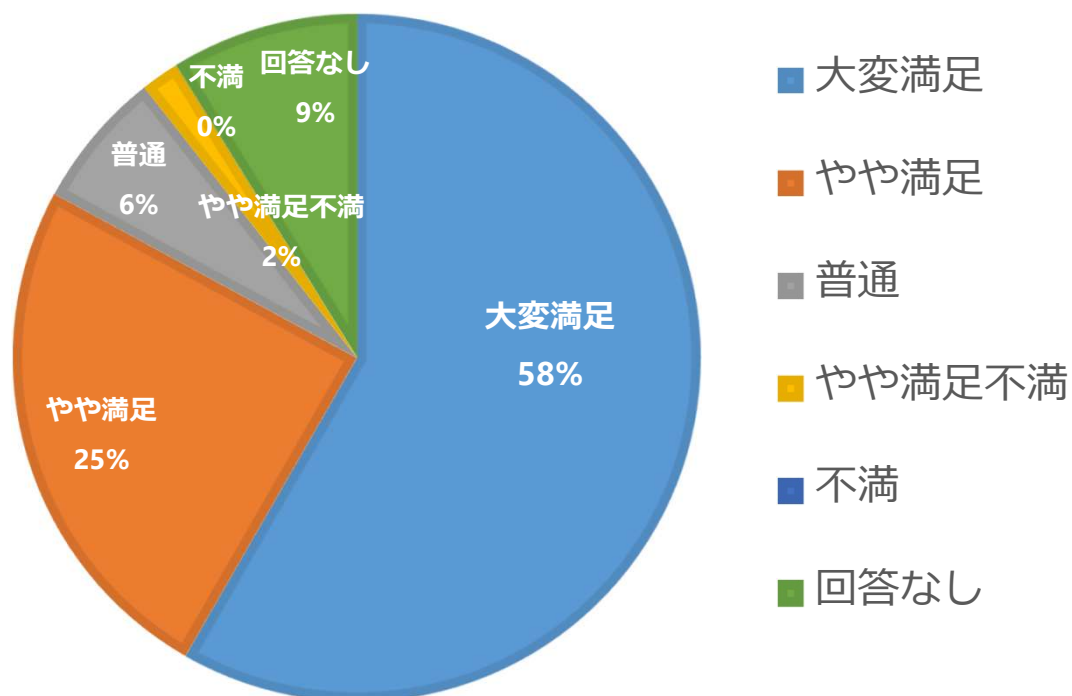
一方で，教育旅行等での誘客が鍵となっている。



3. 来館者の状況について

◎ 来館者のおよそ**8割**は、施設利用全体において**満足**と回答

施設満足度



◎ 評価の**高い**展示コンテンツ

- ① シアター「くり返さないために」（映像展示）
- ② 東日本大震災を知る（パネル展示）
- ③ 語り部からのメッセージ（映像展示）

- ・津波が来たら「すぐ逃げる」という分かりやすいメッセージがよい。
- ・デジタルを使い全体的にバランスよく構成されている。
- ・意味が分からない言葉の解説がされていたのはよかった。
- ・経験者の話はよかった。体験した方の話は心に響いた。

本日本話しさせていたたくこと

1. 当館について
2. 展示コンセプトについて
3. 来館者の状況について
- 4. 現在の課題と取組の方向性について**
5. 「東日本大震災アーカイブ宮城」との連携について



4. 現在の課題と取組の方向性について

課題

- ◎ 来場者増加に向けた誘客の取組と情報発信
- ◎ 県内における震災伝承の拠点としての機能強化
- ◎ 多様な主体と連携した持続的な伝承活動の推進



＋αの
ツールが必要



4. 現在の課題と取組の方向性について

取組の 方向性

- ◎ 来場者増加に向けた誘客の取組と情報発信
⇒ 企画展の工夫や教育プログラムの構築、誘致活動の強化
- ◎ 県内における震災伝承の拠点としての機能強化
⇒ 周辺施設等との連携，県内各地の伝承施設等との広域連携
- ◎ 多様な主体と連携した持続的な伝承活動の推進
⇒ 産学官のネットワークによる連携



県内語り部プロジェクト



ネットワーク会議（イメージ）

本日本話しさせていたたくこと

1. 当館について
2. 展示コンセプトについて
3. 来館者の状況について
4. 現在の課題と取組の方向性について
5. 「東日本大震災アーカイブ宮城」との連携について



5. 「東日本大震災アーカイブ宮城」との連携について

- ◎ 当館の展示における画像・映像資料は**約420点以上**（県整備分のみ）
- ◎ そのうち、外部から提供を受け、引用した震災関連資料は約150点
- ◎ そのうち、デジタルアーカイブより引用した震災関連資料は**約80点**
ほとんどは「**東日本大震災アーカイブ宮城**」より引用



展示制作において、被災写真の収集は非常に手間と時間がかかる。
デジタルアーカイブの利用により、効率的な収集が可能となった。

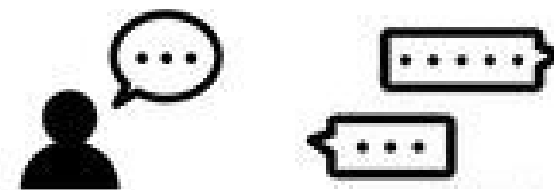
5. 「東日本大震災アーカイブ宮城」との連携について

今後の連携

- みやぎ東日本大震災津波伝承館は、資料収集・保管機能は有していない。
- 今後の展示内容の充実に向けて「東日本大震災アーカイブ宮城」との更なる連携が必要。



来館者の声 (来館者アンケートから)



- ◎ とにかくどれだけの被害だったのかを目で見て知ることができた。
テレビと現場では全く違う思いになった。
- ◎ 経験者の話がよかった、体験した方の話は心に響いた。
- ◎ 県内各地の震災伝承施設に行ってみたいと思った。



御静聴ありがとうございました

みやぎ東日本大震災津波伝承館への御来館をお待ちしております。

